

第3回 モーダルシフト促進のための貨物鉄道の輸送障害時の代替輸送に係る 諸課題に関する検討会 議事概要

1. 日時

平成27年5月28日（木） 13:00～15:00

2. 場所

中央合同庁舎3号館4階特別会議室

3. 議事概要

1. 昨年10月の東海道線内由比～興津間土砂流入発生時の時系列説明及び輸送障害時についてJR貨物(株)から、輸送障害時の代替輸送に係る課題への対応の整理についてJR貨物(株)及び事務局から発表を行った。

2. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

○IS021ft タンクコンテナの船舶代替輸送の際、途中でレール上から貨物を取り下ろす仕組み（体制）が非常にネックになる。それを踏まえて、実態が伴うような形で、船舶への代替輸送を考えていかなければならない。

○RORO 船、フェリーなどで鉄道コンテナを輸送する場合はオンシャーシ輸送となるが、船舶用の鉄道コンテナシャーシを新たに用意するのは難しい。

○貨車に積んだ後は、JR 貨物の責任範疇であり、荷主殿の利益を守るべく最大限努力していきたい。その前段階の、持ち込まれているがまだ積まれていない貨物については、ケースバイケースで利用運送事業者、荷主と協議の上ご対応頂いているのが実情である。（JR貨物）

○昨年10月の事故発生当初、列車情報システムのデータを取り込めていなかったシステム上の不備については、現在改修に着手している。次回に同様の事態が発生した際はこのようなことがないようにしたい。（JR貨物）

○事故発生時も平時も旅客優先というわけではなく、旅客も貨物も平等に

輸送を行っている。これからも顧客に満足してもらえるサービスを提供するため良いダイヤを求めて調整をしていきたい。(ＪＲ貨物)

○沿線の災害を未然に防ぐ方策について、自治体への訪問の話があったが、旅客会社と一緒に取り組むことが重要であると思う。

○会議も次回で最終回の予定だが、あらためて、ＪＲ貨物が本日説明した代替輸送能力の実行可能性が重要だと考えている。この会議をもとにいかに関現的にしていくかが大切である。現在検討されている代替輸送のシミュレーションについて、定期的にいかに実地訓練をしていくかも大切である。人材育成や関係者の連携など、このシミュレーションを実行に移す手段について、関係者一同連携をとって取り組んでいただけたらと思っている。

○シミュレーション内容について、技術的制約やタイムスパンもいろいろ、課題も異なる。どのように課題を整理して、それを受けて荷主サイドのBCPにつなげてゆくか、検討会で整理した内容をそれぞれが活かしていくことが必要である。

○実現可能性をふまえ、前回整理した課題について、誰が、どのような方向で、いつまでに取り組むのかについては、事前調整の上、次回の会議でとりまとめた。(事務局)

○代替輸送において、どの程度の割合をＪＲ貨物が負担すべきかについては、荷主側からこれくらいやってほしいと割合を提示するという考え方もあるし、ＪＲ貨物から必ずこのレベルを確保するという担保をもらった上で、荷主連携で残りを補い１００％に持って行くという考え方もあるのではないかと。同時並行で検討していくことが必要ではないか。

以上(文責 事務局)